

カトリック八尾教会ニュース



2022年12月

Tháng mười hai

【今月の予定】

ミサの時間

3日(土・祝)	—————	日本宣教の保護者フランシス・ザビエル司祭
4日(日) 待降節第2主日	9:00	新①グループ(A地区+B地区+ベトナム①)
<< 待降節黙想会講話 >>	10:15~10:45	全グループ対象
	11:00	新②グループ(C地区+ベトナム②+ベトナム③)
8日(木・祭) 無原罪の聖マリア	10:00	
11日(日) 待降節第3主日	9:00	新②グループ(C地区+ベトナム②+ベトナム③)
	11:00	新①グループ(A地区+B地区+ベトナム①)
17日(土) 子ども会	14:00	初聖体の勉強会
	15:00	信仰講座
18日(日) 待降節第4主日	9:00	新①グループ(A地区+B地区+ベトナム①)
	11:00	新②グループ(C地区+ベトナム②+ベトナム③)
ベトナム語のミサ	15:00	
24日(土・祭) 主の降誕(夜半)	17:00	※事前の申込みが必要
	19:30	※ 〃
25日(日・祭) 主の降誕(日中)	9:00	新②グループ(C地区+ベトナム②+ベトナム③)
	11:00	新①グループ(A地区+B地区+ベトナム①)
28日(金・祝) 聖家族	—————	



※コロナ禍、聖堂内の人数制限を行っているため、クリスマスミサは事前の申込みが必要です。

—「主日のミサにあずかる義務は、教区内のすべての方を対象に免除されている」ため、体調のすぐれない方、少しでも不安のある方はどうか無理をなさらないでください。—

【平日のミサ】

木曜日 10:00 (1日、8日、15日、22日、※29日はお休みです)

【お知らせ】

◎待降節黙想会

日時 : 12月4日(日) 10:15~10:45 (講話)

(指導司祭) 崔 周永神父様 <全グループ対象>

※ゆるしの秘跡は待降節中のミサ前後に希望者は受けることができます。

◎信仰講座 第3土曜日 15:00~

崔神父様の指導のもと、求道者や信徒対象に信仰講座を行っています。



ゆうびんぶつ はこ ひこうき ひろ だいち すで よる くら そら
郵便物を運ぶ飛行機のパイロット。オーストラリアの広い大地、既に夜になっている暗い空を
ひとり と おん なが おんがくいがい よけい おと いっさいとだ せかい
一人で飛んでいく。エンジン音と流している音楽以外、余計な音が一切途絶えている世界。

なか ひと そうじゅうかん にぎ かぜ の きょう と ちじょう ひとびと わずら
コックピットの中に独りで、操縦桿を握り、風に乗って今日も飛んでいる。地上の人々や煩わ
しいことと離れ、独りでいつまでも飛んでいきたい。時々、着陸して荷物を下すだけでまた飛べ
る。ずっと空で飛んでいたい。永遠に飛び続け、空の一点になりたい。

もし、しさいになつていなかつたら、がいこくに行つて飛行機の免許を取り、郵便物や貨物を運ぶ
パイロットになりたいと思つてゐた。2010年1月に日本に來られたので、飛行機パイロットになる
ことはなかつたが、さいきん よる じてんしゃ
最近、夜に自転車ライディングをしていて、ハッと気づいたのだ。

どこ つづ みち すで あ くらやみ ま とし ひとり はし
何処までも続いている道、既に夜になっている明かりと暗闇の混じっている都市を一人で走つて
いく。タイヤが道路とぶつかる音と通り過ぎていく車の音以外、余計な音がほぼ途絶えている
せかい とうろ うえ ひと おと とおす くるま おとがいがい よけい おと とだ
世界。サドルの上に独りで、ハンドルを握り、風を切りながら今日も走っている。路上の人々や煩
わしいことと離れ、独りでいつまでも走ってきたい。折り返しの新石切駅、また走れる、玉造
まで。ずっと走ってきたい。明日も走りたい。

そうだった。おなじことだったのだ。だれ なに さまた じぶん す
そうだった。同じことだったのだ。誰からも、何からも妨げられることなく、自分の好きなこ
とをやる。たよりになるマシンのの、その巧みなメカニズムを回しながら、極めて規則的な音、つ
まり、飛行機の場合はエンジン音。おん じてんしゃ おん たの しず じぶん ないめん せかい
まり、飛行機の場合はエンジン音。自転車はラケット音を楽しみながら、静かに自分の内面の世界
に沈んでいく。しず た ええず けうかん じかん うつ つづ か か つづ いっせん しゅうれん
静けさ、静寂、沈黙の世界に向かうのだ。

きゅうきよく しず せいかく ちんもく せかい む
究極の静けさは、やがて、其処は神様との出会い！かすかに漂ってくる、人間世界の匂い。
や にくや けむり とうゆ ねんしょう にお しゃない ほうこうざい あま にお いろいろ おも で
焼き肉屋の煙、灯油ボイラーの燃焼する匂い、車内の芳香剤の甘たるい匂いが色々な思い出を
よだ あま せつ おも で うし はし つづ こ よけい
呼び出す。その甘くて切ない思い出を後ろに走り続ける。ただペダルを漕ぐだけで余計なことは
いっさいい 二 もくてきち つ かみさま いたつせん あす
一切要らない。ただ漕いでいるだけで目的地に着ける。神様に、そして、明日に。

ハッと気づいて、よく考へてみたら、人生の流れには一貫性というものがあるようだ。小学生
ころ からだ あま じてんしゃ の はし まわ じゃりみち みち じてんしゃ の
の頃、体に余る自転車に乗っては走り回っていた。砂利道がほとんどだった道を、自転車に乗つ
て、じぶん ちから ど こ い みりよく ある はし そくど
て、自分の力で何処まで行ける。その魅力！歩くより、走るより速度があり、そうでありながら、
まわ ふうけい み あた めせん まわ みわた ど こ と つね けうかん か
周りの風景が見える。新しい目線で回りが見渡せる。そして、何処にも止まらず、常に空間が変わ
り、時間は優しくラケット音と共に流れていく。しょうねんじだい だいじ じてんしゃ かか
り、時間は優しくラケット音と共に流れていく。少年時代の大事な自転車との関わりが、ようや
く、とき へ おおさか よみがえ じてんしゃ たんじゆん はし そつちよく うえ かん
く、時を経て、大阪で蘇ってきたのだ。自転車の単純さ、その走りの率直さ、サドルの上で感
じる自由。じゆう く かえ つづ たんじゆん むねん
じゆう 繰り返し続ける、ごく単純なペダリング。そして、無念になること。なるほど。そう
だった。かんが す じぶん かみさま あた もくそう じてんしゃ の
考えた。考え過ぎがちな自分に、神様から与えられた黙想だったのだ。自転車に乗っているだけで
も休みなさいという招き。

ひと こ と とまつては たお じてんしゃ よわ じぶん
独りで、漕がないと止まってしまう自転車で、つまり、弱い自分で
でき とお かみさま む
出来ることを通して、神様に向かっていく。

ゆ かくじつ もくてきち きより ちぢ
揺れながら、しかし、確実に目的地との距離を縮めていく。

